

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計		事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	ユニバーサルデザインスクール事業	シート番号	038-047
担当部署名	教育委員会事務 局	学校教育 部	支援教育 課
		評価責任者(課長名)	川島

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	3	次代を担う子どもを健やかにはぐくみます	後期実施計画の位置付け
			施策	4	教育・生活環境の充実	有
	2	事業開始年度	平成 27 年度		終了(予定)年度	令和 2 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	教育基本法 学校教育法 障害者基本法 発達障害者支援法			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	通常の学級内における発達障害をはじめとする、配慮を要する児童生徒の増加、教育的ニーズが多様化する中で、教員の子ども理解力や授業力の向上を図る必要がある。(平成26年度までの特別支援教育推進事業を、平成27年度から「特別支援教育推進事業」「特別支援教育環境整備事業」「ユニバーサルデザインスクール事業」の3事業に分割して実施する)				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()					
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	発達障害をはじめ配慮を要する幼児児童生徒					
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	発達障害をはじめ、配慮を要する児童生徒の増加、教育的ニーズが多様化する中で、発達障害の特性理解を深め、どの子にもわかる授業と静謐な学習環境をつくる。					
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	<input type="checkbox"/> 発達障害理解研究(研究校小中15校を指定) <input type="checkbox"/> 自校の課題に合わせ、年4回の専門家派遣を行い、各校における発達障害児の特性理解を深め、授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。 <input type="checkbox"/> 発達障害児等専門家派遣 <input type="checkbox"/> 医師・専門家等を学校へ派遣し、保護者・教員への助言を行う。 <input type="checkbox"/> 授業のユニバーサルデザイン化推進研修 <input type="checkbox"/> 教員対象の研修を実施する。 <input type="checkbox"/> 通級指導教室担当者研修 <input type="checkbox"/> 通級指導教室担当教員対象の研修を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()					
10	直接実施以外の主な支出先							

Ⅲ. 投入量

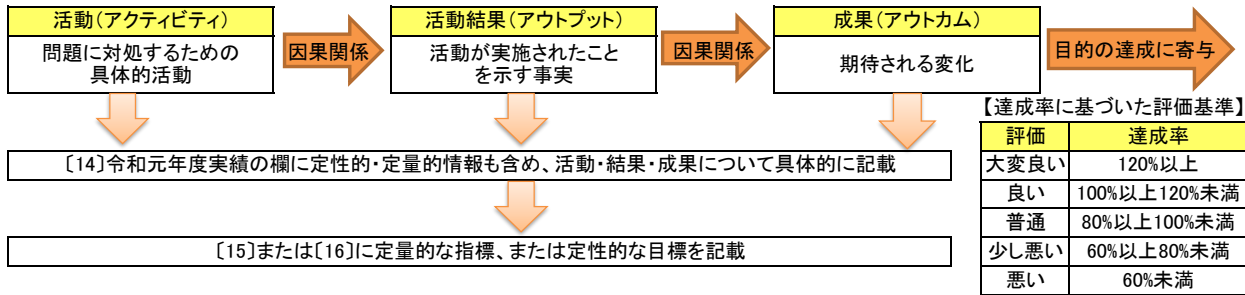
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費(a)	千円	3,932	3,809	3,861	3,638	3,305	3,099	3,243	
主な事業費内訳	発達障害理解研究専門家謝礼金等	千円	3,202	3,151	3,219	3,117	2,879	2,737	2,760
	発達障害児等専門家派遣医師報酬等	千円	84	84	56	0	56	0	56
	消耗品	千円	246	235	246	237	112	65	114
	印刷製本費	千円	240	227	240	227	160	216	210
	国・府支出金	千円	1,664	1,613	894	813	691	535	874
	財源内訳	千円							
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円								
市債	千円								
その他()	千円								
一般財源	千円	2,268	2,196	2,967	2,825	2,614	2,564	2,369	
12 人件費(b)	千円	20,500	20,500	20,500	20,500	20,250	20,250	16,400	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	24,432	24,309	24,361	24,138	23,555	23,349	19,643	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	ユニバーサルデザインスクール事業	シート番号	038-047
-------	------------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



[14]令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

事業の活動実績や成果

		令和元年度実績						
活動実績と成果	14	○発達障害理解研究(研究校として小中15校を指定) ・研究校15校に専門家を派遣し、各学校ごとの課題に応じて研修を進め、発達障害児の特性理解を深め、授業のユニバーサルデザイン化に取り組むことができた。 ○発達障害児等専門家派遣 ・27校園(幼2、小20、中5)に、医師・専門家等に派遣し、保護者・教員への助言を行うことができた。 ○授業のユニバーサルデザイン化推進研修 ・7月に、「ユニバーサルデザインを学級づくりに活かす」をテーマに研修を実施し、392名の参加があった。 ○通級指導教室担当者研修 ・通級教室担当教員向けに8回の担当者研修と、24回の専門家派遣研修を実施した。						
	15	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		全教員による特別支援教育研修を実施し、教員の専門性や指導力向上に取り組む学校の割合	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	100	100	100	100	
			達成率	100%	100%	100%	100%	
	評価		良い	良い	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		全校園で取り組むことを目標とする。					
	16	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		授業のユニバーサルデザイン化推進研修参加者の研修参加満足度	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	98	89	100	100	
			達成率	98%	89%	100%	100%	
	評価		普通	普通	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		回収された参加者のアンケートによる、研修内容の満足度を目標とする。					

事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	①	発達障害理解研究研究校数	校	20	20	15
	②	上記①にかかる年間経費	千円	23,651	23,617	22,987
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	1,182,550	1,180,850	1,532,467
	備考(算出についての説明等)		指標については、経費がないために、①②については発達障害理解研究の経費を記載した。			
		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	①	授業のユニバーサルデザイン化推進研修参加者数	人	337	367	392
	②	上記①にかかる年間経費	千円	20,576	20,578	20,326
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	61,056	56,071	51,852
	備考(算出についての説明等)		指標については、経費がないために、①②については授業のユニバーサルデザイン化推進研修の経費を記載した。			

業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)	【分析のチェックポイント】 ○ 事業の達成度はどうでしたか。 ○ 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。 ○ 資源投入は適切でしたか。 ○ 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。 ○ 有効性は高いですか。低いですか。 ○ 効率性は向上していますか。 ○ RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。 ○ ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。
	(発達障害理解研究成果報告書から) ・ユニバーサルデザインの観点を教員全体で共通理解することで、教科の教材研究や授業づくりにつなげることができた。 ・全ての教員に自身の教室環境や授業を観察してもらい機会を設けられ、それに基づいた指導助言を得られた。また、教室環境や授業中の視覚支援などのハード面、教師のほめ方やしかり方、指示の出し方などソフト面について指導を受けた。 ・指導により本校のスタンダードをよりよいものに進めることができた。 (発達障害児等専門家派遣報告書から) ・発達検査を受けて、子どもの状況を客観的に把握することができた。支援方法についても助言をいただき、保護者への説明ももらったので、保護者の発達障害への理解が進んだ。 ・専門家による検査などを受け、本人の困り感について知ることができた。その後、保護者との教育相談を行ったことで医療機関につながることもできた。 以上のことから、事業の各取り組みが、障害のある子どもの支援に著実に繋がっている。	

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	ユニバーサルデザインスクール事業	シート番号	038-047
-------	------------------	-------	---------

≪ V. 点検 ≫

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○ 上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。

⇒

	確認
--	----

コ ロ ナ 禍 を 踏 ま え た 点 検 (必 要 性 ・ 有 効 性 ・ 効 率 性)	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できる <input type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 本事業は廃止するが、取組内容の一部について、他事業に統合する予定である。		
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響	休止の場合の再開時期 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由		
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由		
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 () 関連事業名 () ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他 ()	理 由 ・ 説 明		
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降			
		見	小学校、中学校における授業のユニバーサルデザイン化の取組が進んできたこと、発達障害等への学校の理解が一定進んできたこと、主な研修については教育センターに移管されたことから、本事業を廃止する。ただし、通級指導教室等の取組等、今後も必要のある取組については別事業と統合するなどして今後も取り組む予定である。			